新天地を求めて

県人創業物語

タオ（滋賀県）（上）

学習の楽しさを提供

井内良三さん（小松島市出身）

「天神、天神」。下校したばかりの男児が階段を駆け上がり、自室のパソコンで学習ソフトに取り組む―。子ども向けテレビ番組の合間に流れるコマーシャルで紹介されている学習支援ソフト「天神」を開発、販売しているのがタオ（滋賀県草津市）だ。小松島市出身の井内良三さん(57)が1992年に立ち上げ、競合が多い業界で着実に成長している。

小松島市で5代続く漁師の長男として生まれた。小学校に入る前から漁を手伝い、将来は家業を継ぐのが当然と思っていたが、いつまでも船に慣れず不器用なままだった。「本を読むことが好きで、小学3年で自分は漁師に向いてないと自覚していた」と笑う。

「学者になる」と誓い京都大文学部に進学したものの、研究の世界でも行き詰まりを感じた。将来について悩んでいた20歳のとき、全治13カ月の交通事故に遭う。

後遺症を抱えた体でフルタイムの勤務は難しく、見つけた仕事が時間の融通が利く子ども向け教材の訪問販売だった。赴任した滋賀県では新設店の支店長にも就き、順調に会社勤めをしていた。

転機は32歳のときだった。父が大病を患い、自身の半生と向き合った。望まれていた漁師にも、希望した学者にもなれなかった。「何と情けない息子か。このままでは駄目だ」。新たな道として起業を決意した。

「いったん口にしたことは曲げない性格。会社を辞めると告げられたときはとにかく驚いた」。妻で専務の享子さん(64)は振り返る。営業の経験を生かし、別のパソコン教材販売会社の代理店としてタオを設立した。

商品にほれ込んで始めた事業だったものの、利用者からの意見を取り入れて商品を改良する意識が乏しく「いっそ自分で作ろう」と思うように。プログラマーを雇い、知り合いの塾講師に問題作成を依頼。代理店としての仕事を終えた後、黙々とプログラムを作り上げていった。

「世界一実効ある学習システムを開発する」との目標を掲げ、2年近くかけて95年1月に学習システム「天神」を完成させた。着実に利用者を伸ばし、個人だけでなく塾や学校などにも導入され、現在5万人の利用者を獲得している。

社名のタオは古代中国の老子の思想から付けた。「世界には自分の力を超えたルールがあり、基本的に自分にとって良いことしか起こらない」と解釈し、曲折を経た半生も「苦労などなかった」と笑い飛ばす。

さまざまな学びのおかげで人生に喜びを見いだせた経験を踏まえ、「子どもたちに勉強は楽しいんだよということを伝え、将来に生かせるものを提供していきたい」と教材作りに懸ける思いを語った。（平田潤）

「子どもたちの未来に生きる力を育てたい」と話す井内さん＝滋賀県草津市

新天地を求めて

県人創業物語

タオ（滋賀県）（下）

子どもの未来支える

小松島市出身の井内良三社長(57)が興したタオ（滋賀県草津市）は、「子どもの自己実現を支援する」との信念で22年間、一つの商品を磨き続けている。パソコンを使った学習支援システム「天神」だ。小学生向けに始まり現在は未就学児から高校生まで対象年齢が広がっている。

最大の特徴は、子どもの理解度に合わせたオーダーメードの学習を提供していること。教科書に即した問題を答えるうちに得手不得手を解析し、それに合わせて出題が変わっていく。理解度によっては下の学年から学び直してつまずきを解消する。

問題考案などの開発に携わる穴澤一毅さん(40)は「子どもたちにとっての分かりやすさを重視している。利用者から疑問が寄せられればその日のうちに改善することもしばしばある」と話す。

子どもの生きる力を伸ばすことにも心を配る。その一つが加点主義の考え。満点を目指すのではなく、できたことにポイントを与え、失敗を恐れず挑戦する心を育てる。日替わりで世界の偉人を紹介し、人生モデルを探してもらうきっかけにしている。

「勉強は可能性を広げ人生の喜びや幸せをつくるためのもの。成功体験を積み重ね、自信を付けることが何より大切だ」と井内社長は力を込める。

井内社長の考えは、44人の社員にも浸透している。社員の意識を高めるのに活用しているのが、毎日の朝礼だ。

「おはようございます」。午後1時になると出社中の全員が会議室に集まり、笑顔体操やストレッチ体操、利用者から届いたお便り紹介、目標を達成した社員の称賛などをする。朝礼を主導するリーダーは社員が日替わりで担当し、全員で「子どもの自己実現」に向けた思いを共有していく。

入社1年目の大村茉莉子さん(23)は「仕事をしていると自分の世界にこもりがちになるけれど、朝礼で毎日顔を見合わせることで雰囲気が良くなる」とほほ笑む。

社員が一丸となり、今後は現在のシステムをさらに改良するとともに、外国での販売を射程に置いた海外企業との連携、発達障害のある利用者や高齢者向けサービスなどにも取り組む。販売強化にも努め、個人のほか、塾や学校への導入も進める。

少子化が進む中での経営環境について「2千万人以上いる子どもの数からすれば5万人という利用者は少なく、少子化を不安視する必要はない。天神の魅力を伝え、2023年の利用者10万人を目標に全力を尽くしたい」と井内社長。子どもの未来を支える挑戦はこれからも続く。（平田潤）

朝礼に臨むタオの社員。毎日共有する時間をつくり社員の思いを一つにしていく＝滋賀県草津市